

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 3

2016年6月8日発行



6月の聖句「絶えず祈りなさい」（テサロニケの信徒への手紙 I-5節11章）

チャプレン 司祭 池田亨

聖パウロの勧めです。

人間は、ホモ・サピエンスと呼ばれます。ラテン語で「考える人」を意味します。また、オランダの歴史家ホイジンガーは人間の本質をホモ・ルーデンス、すなわち「遊ぶ人」と呼びました。いずれも、こどもたちを見ていると本当にそうだなと思います。

加えて、チャプレンの私見ですが、これに、ホモ・オラチオニス「祈る人」をもって示すことができると思うのです。考えてみると、地上における生物で人間以外に「祈り」を有するものはいません。祈る猿も、祈る犬も猫もいません。

特定の宗教を持つ、あるいは信じるということを越えて、人間は祈る存在ではないでしょうか。

聖十字幼稚園のこどもたちの祈る姿は美しい。こどもたちに根源的かつ普遍的な人間の本質を教えられます。



園長 菊地 和子

卒園生がいっぱい！

小学校の運動会の振り替え休日、5月末の月曜日はいつも小学生がいっぱいです。卒園生がそろって遊びに来てくれるのです。幼稚園は陽気な笑い声で満たされます。小学生たちは朝の自由遊びを十分楽しんでから、いっしょに礼拝に参加しました。

幼稚園のときは毎日お祈りしていたのに、卒園したとたん、生活の中から「お祈り」は消えてしまいますよね。でも、1日の中でほんの1、2分でもいいので、目をとじて、神様にお話してほしいのです。「今日も一日ありがとうございます」「あんなことしちゃってごめんなさい」「遠くに住むおじいちゃんおばあちゃんをお守りください」・・・自分のこと、家族のこと、友達のこと、ごはんが食べられて布団で眠ることへの感謝・・・よりよく生きようとする人にとって、静かに祈る時間はとても大切です。いつかふっと「お祈り」ってあったなあ、と思い出してくれる日があるのでしょうか。忘れてしまったらさみしいですね。祈りの心をずっと持ち続けてくれたら、こんなにうれしいことはありません。

たんぽの美しい季節です！

幌向の水田の風景、が大好きです。
じが豊かになりますね。

6月2日、今年も田植えをさせて貰いました。
とっても寒い日で、最初、足を入れると
冷たかったです。

それでも

「寒い寒い」と言ひながら

一度たんぼに入ると

集中して最後まで

頑張つていました。

「うまいねや！」と

ほめられたぞう

です。

あつろかいたくさん！

おふろかいたくさん！

あつろかいたくさん！

6月、大忙しの年長さん

次の日は日本舞踊です。

日本舞踊協会

北海道支部の皆さんか

教えて来て下さいました！

男の子も女の子もすくすくわいい和服姿。

すり足、正座、おじぎを習ってから、

「さくらさくら」「証城寺の狸狛子」を

習いました。みんなたくさんほめてもうって

ましたよ。

先生方に感謝

教え方がとっても上手

バスと事務の林木先生が教えてくれた話です。

手中さんは、年長さんのお世話を

とっても上手にしているので、くつを

脱がせるのもせーんびや、あげたい

のですが、そこで年長さんがいとこと、

くつは自分で

めげるからやらせた方がいい

と、くつ箱に

しまふを

一手伝ってくれました。

Helpの本質がわかれています

ね！！

できなさい

ことやうけ

手伝って

あげるんだよ

と、くつ箱に

しまふを

一手伝ってくれました。

Helpの本質がわかれています

ね！！

保幼小中交流

日曜日、岩見沢市内の小学校の運動会を全部まわろう、と先生方が走り回ってくれます。卒園した子たちの小学校での頑張りがよくわかるのが運動会です。そんな風に外に出ていくと、いろんな情報がもらえるものですね。ある中学校の先生から、「今、中学校で携帯・スマホの問題が大変。子供たちの生活を壊している。小学校ではゲームの影響で、自分で考えられず受け身の子が増えている。幼稚園のときから親や先生みんなで考えいかないと」というお話を聞いてきたそうです。私たちにとっても、せっかく自然の中で自主的に遊ぶことを大事にして育てた子たちが、早いうちからスマート폰になっていく環境は残念すぎます。義務教育終了までの15年が子育ての勝負。保幼小中の先生方や保護者のネットワークが早くできて、町ぐるみで子供を守る体制が作れたらいいですね。